

中国・四川大地震パンダプロジェクト

2008年5月12日、中国・四川省をM8級の地震が襲いました。死者・行方不明者8万人以上、数百万人が避難生活を続ける大災害に対し、私たちは「忘れない、思いをはせる、気持ちを届ける」を合言葉に日本からの支援策を探ってきました。そこで生まれたのが「パンダタオル」です。見た目はかわいくとも、被災地と私たちをつなぐメッセンジャー。当通信は、パンダタオルをめぐる活動や被災地の状況をお伝えしながら、復興支援への協力を呼び掛けます。

～被災地は今～

V-MAX 箕輪さんのレポート・その2

— 棚花村の鐘思琪 (チョン・スーチー) —



「チョン・スーチーさん」

スーチーさんの部屋には「まけない象」が飾ってあった。パンダタオルを見せてほしいと頼むと奥から大切そうに出してきてくれた。「可愛くてもったいないから使っていない」と彼女は笑う。素敵なお顔の持ち主だ。しかし、震災当時の話になると私たちの方が表情をなくした。

震災時の記録を収めたアルバムを見せてくれた。泣きながら遺体を運ぶ人の姿があった。「こんな場面は見慣れてしまった。私の側でも毎日遺体を運んでいた。私のいところを含めて・・・」

震災直後は救援物資も届かず3日間何も食べずに山の上に避難していたという。その後個人ボランティアが車でやってきて食べ物をまいて行

った。「その時は悲惨だった。尊厳もなにもない。考えるのはただ一つ、食べることだけ。みんな泣きながら食べ物を拾って食べていた」そう言って彼女は笑い、そして俯いたきり黙ってしまった。中国新農村のモデル地域であったこの村は再建が早く、彼女の家も村の家々も伝統の年画と呼ばれる美しい絵が描かれていた。



「チョン・スーチーさん一家」



「再建された家と年画」

美しい村に住む笑顔の可愛らしい女性、そして彼女の口から語られる辛い話の数々、そのコントラストがあまりに強すぎて私たちには言葉もなかった。

その後、スーチーさんに震君の家へ案内してもらった。しかし、震君は親戚の家に出かけていて留守だった。せめて現在のパンダタオルを見せてもらおうとお願いしてみると、震君はパンダタオルをととても気に入っていてどこへ出かけるにも離さずに持ち歩くという。

うれしい話と残念な結果に複雑な思いを抱きつつ新しいパンダタオルを手渡して震君の家を後にした。

スーチーさんは他の子供を探し歩いてくれた。しかし、平日の午前中なので学校へ行っている。

しばらく探してやっと会えた1歳半の女の子。人見知りする子で、我々とは目も合わせてくれない。しかし、パンダタオルを手渡すとフッと笑顔がこぼれた。渡す方もこんな瞬間が一番うれしい。残りのパンダタオルはスーチーさんに託して棚花村を後にした。



「1歳半の女の子パンダタオルに笑顔を見せてくれた」

ーパンダタオルプロジェクトに触れてー

今回の取材で私はパンダタオルプロジェクトにかかわる方々の熱い思いに触れて四川省に赴いた。しかし滞在期間は僅か3日、お会いした被災者の方も数人でしかない。

こんな状況でプロジェクトを云々することは

できないが、スーチーさんの話の中にプロジェクトの意義に触れる部分があった。

「あなた方がここにきて何もできないかもしれない。しかし、遠いところからきてくれて語ってくれた言葉がとても温かく、それが私たちに自信と温かさを与えてくれた。この人たちはボランティアが少しずつ離れ始めてから喪失感や寂しさを感じていた。一時期それがとても強いときもあった」

復興が進み始めた今こそが、パンダタオルを最も必要としている時かもしれない。そして、現実はとても厳しいと思うが、ただ送りつけるのではなく「手渡す」ことが重要に思う。

手渡したいものはパンダタオルプロジェクトにかかわっている皆さんの思いなのだから。



最後に【大陸に渡ったパンダ】制作にご協力いただいた上に発表の機会まで与えてくださったRSYの皆さんに心からお礼申し上げます。

(文・写真＝V-MAX ディレクター・箕輪幸徳)

【次回の予告】

常務理事浦野が7月11日～14日にかけて、中国四川省へパンダタオルを届けるべく、中国を訪問してまいりました。CODE 海外災害援助市民センターの吉椿さんのコーディネートのもと、以前からこの活動にご協力を頂いている日本災害救援ボランティアネットワーク理事長の渥美さんらと共に訪問いたしました。次回は中国訪問の報告をさせていただきます。(柚原)

パンダタオルが心と心をつなぐ！

☺パンダタオルの輪☺

☆思いよ、届け☆ [日本にいるパンダ達 現在 313パンダ]

日付	内容	場所/主催
6月20日	パンダタオル手づくり教室	西宮市大学交流センター講義室1/ 日本災害救援ボランティアネットワーク(NVNAD)
7月3日・11日	RSYボランティアデー/ パンダタオル手づくり教室	RSY事務所/RSY



真剣な表情で、みなさん作っています。



どんなパンダタオルができるかな？



すごくかわいいパンダ達が誕生しました！！

6月20日(土)、大阪府西宮市でパンダタオル手作り教室が行われました。今回は 11 名の参加者が、かわいいパンダタオルを作ってくださいました。今年の1月名古屋のボランティアリーダーを呼んで頂き、パンダタオル手作り教室が開催されました。西宮市には、RSYがいつもお世話になっている団体、日本災害救援ボランティアネットワーク(NVNAD)があり、パンダタオルプロジェクトをずっと応援してくださっているのです。そして、ボランティアリーダーが講師として行った後も、今回のようにNVNADの事務局が主催して、パンダタオル手づくり教室を開催してくださっています。パンダタオルプロジェクトは、みなさんよって支えられ、中国四川省のみなさんに思いが届けられています。ご協力ありがとうございます。

【まめまめ四川】⑦四川省の世界遺産

四川省には中国だけではなく、世界でも有名な自然遺産と文化遺産が数多くあります。世界の自然と文化遺産には九賽溝の溪谷の景観と歴史地区(1992年、自然遺産)、黄龍風景区(1992年、自然遺産)、峨眉山と樂山大仏(1997年、自然と文化の複合遺産)、青城山と都江堰(2000年、文化遺産)の六ヶ所が登録されています。中国国家級の風景名所区に9ヶ所、歴史文化名所に7ヶ所があるほか、国家級の森林公園が11個、文化保護区が40個もあります。四川省は、多彩多様な民族風景と有名な四川料理で世界に名を知られています。(柚原)



事務局より

● 作り手さん大募集！！

RSYボランティアDAYにて「パンダ作り教室」を開催！

8月 3日(月) 10:30~12:30

8月 26日(水) 19:00~21:00

※ 参加自由。パンダキット1セット100円で販売します。

場所: NPO 法人レスキューストックヤード事務所
(地下鉄東山線「本山駅」下車2番出口から徒歩2分)

● 「パンダ教室」をイベントによんでください！

四川大地震写真パネルの貸し出しやパンダづくり講師を派遣します。

(パネル貸出無料。講師交通費はご負担下さい)

● パンダタオルプロジェクト募金にご協力下さい。

パンダタオルを作成・送付するためには必要経費として材料費や郵送料等が必要です。活動資金のご協力をお願いします。

[お振込み先] 郵便振替: 00800-3-126026

加入者: 特定非営利活動法人レスキューストックヤード

※通信欄に「中国四川大震災支援」と明記してください

パンダ通信 第7号